

## 野生いのしし対策の現状と課題について

### 1 捕獲の強化

- 昨年度、CSFウイルス拡散防止の観点から、県下全域を指定猟法禁止区域に指定したうえで、県内猟友会に委託し、狩猟に代わる広域捕獲を実施したほか、調査捕獲の従事者を168名から332名に倍増、ICTを活用した捕獲通知システムを試験導入するなど、捕獲の強化を図ったが、捕獲実績は5,880頭と目標の約39%にとどまった。

#### <年度別捕獲実績>

	調査捕獲等	有害捕獲	広域捕獲※	計
H29	65	7,052	5,056	12,173
H30	555	8,310	2,114	10,979
R1	1,574	3,586	720	5,880
捕獲目標	2,700	9,000	3,300	15,000

※H29は狩猟（全域）による捕獲実績。H30は狩猟（一部地域）による捕獲実績。

#### （参考 本県における捕獲区分について）

- 「調査捕獲」
  - ・ CSF浸潤状況の把握、経口ワクチン散布のサーベイランスのため、県が県猟友会に委託し実施。
  - ・ 経口ワクチン散布箇所から、おおむね2km以内で実施。
- 「有害捕獲」
  - ・ 農林水産業等の被害防止を目的として市町村が実施。
  - ・ 住民からの捕獲要請に基づいて実施。（主に4月～10月）
- 「広域捕獲」
  - ・ 狩猟によるCSFの拡散を防止する観点から、県内の狩猟免許所有者に限定し、狩猟に代わる捕獲として実施。（期間は、狩猟期と同じ11/1～3/15に設定）
  - ・ 調査捕獲の実施エリア外で実施。

## 【ICTの活用による捕獲通知システムの導入状況】

### (1) 捕獲通知システムの概要

- ・くくりわなや囲いわななどに獣がかかると、携帯電波などを利用して、スマートフォン等へメールにて通知するシステム。
- ・捕獲状況の通知が来ることで、見回りや止め刺しの事前準備などの負担を軽減。

### (2) 試験導入 (R1) の状況

- ・可茂地域 (美濃加茂市、可児市、坂祝町、富加町) 30 基 (利用人数 12 人)
- ・揖斐地域 (揖斐川町、大野町、池田町) 20 基 (利用人数 8 人)
- ・恵那市 10 基 (利用人数 1 人)

※ R2年度は、全県において400基を導入予定。

(R2 事業費：21,996 千円)

## 【ICTを活用した囲いわなの試験導入】

### (1) ICTを活用した囲いわなの概要

- ・箱わなに設置したカメラの画像をPC等に送信。画像を見ながら、遠隔で扉 (ゲート) を閉めることができるシステム。
- ・いのししの群れを効率的に一網打尽にできる。

### (2) 試験導入 (R1) の状況

- ・恵那市と坂祝町でそれぞれ1基。(計2基)
- ・いのししの誘引が十分にできず、群れ全体の捕獲には至らなかった。

※ R2年度は、囲い込み方法を変えるなど、警戒心を下げる誘引方法の実証を揖斐と飛騨の2カ所を実施予定。(R2 事業費:9,636 千円)

- また、調査捕獲での捕獲頭数は、西濃・飛騨地域において感染が遅れて発生したため捕獲の期間が短くなったことや、狩猟期の指定猟法禁止によるモチベーションの低下などの理由により地域ごとにバラつきが出ている。

<地域別捕獲頭数（R1）>

	岐阜	西濃	中濃	東濃	飛騨	合計
捕獲頭数	274	654	1,349	1,660	1,943	5,880
調査捕獲	158	174	520	588	134	1,574
有害捕獲	77	444	630	826	1,609	3,586
広域捕獲	39	36	199	246	200	720
検査頭数 ※1	227	258	840	665	264	2,254
調査捕獲従事者数 R2.3 末時点	43	41	112	80	56	332
ワクチン散布対象メッシュ数 ※2	390	439	1,292	669	1,610	4,400
森林面積 (km <sup>2</sup> )	585	980	2,009	1,166	3,671	8,411

※1 調査捕獲、有害捕獲の一部及び死亡個体の PCR 検査頭数

※2 ワクチン散布対象メッシュの1メッシュの面積は1km<sup>2</sup>。

**【分析】**

- ・ C S F 感染による死亡や前年度からの捕獲強化の継続により、いのししの生息数が少なくなっていると推察され、それに伴い有害捕獲数が少なくなるなど捕獲総数が減少した。
- ・ 広域捕獲では、捕獲個体をジビエ利用できず、また、捕獲個体の適正処分が求められたことなどから捕獲意欲が低下し、捕獲数の大幅な減につながった。

**【今後の課題】**

- ・ 現状を把握するためのより詳細な生息数調査の実施
- ・ 地域別いのしし生息数や捕獲従事者の確保状況など、地域特有の課題を踏まえた地域別捕獲計画の策定
- ・ 感受性個体となる幼獣の個体数削減を図る効率的な捕獲方法の検討
- ・ 捕獲対策の長期化に備えた捕獲従事者の育成・確保及び猟友会の体制強化支援
- ・ 市町村焼却施設の活用促進などによる、捕獲個体を適正に処分しやすい環境の整備
- ・ 捕獲個体のジビエ利用に向けた適正処理・検査手法の検討及び処理基準・マニュアルの整備

## 2 経口ワクチン散布

### <経口ワクチン散布実績>

〔令和元年度〕

第1期：拡散防止柵（本巢市から恵那市までの144 km）内と柵外の陽性  
個体発見地点にスポット散布（0.5 箇所/km<sup>2</sup>）

第2期：ウイルスの拡散防止を目的にCSF感染確認エリアの外側に  
ワクチンベルトを設定。当該ベルトと養豚場周辺は重点散布  
エリアとして0.7 箇所/km<sup>2</sup>、その他は0.3 箇所/km<sup>2</sup>を散布。

第3期：陽性個体が県内全域に拡大したため、野生イノシシが生息する  
県内34市町村全てで散布を実施。ただし、降雪の影響から、  
郡上より南側を中心に散布。養豚場周辺は重点散布エリアと  
して、0.7 箇所/km<sup>2</sup>、その他は0.4 箇所/km<sup>2</sup>。

〔令和2年度〕

春 期：県内34市町村全てで散布を実施。

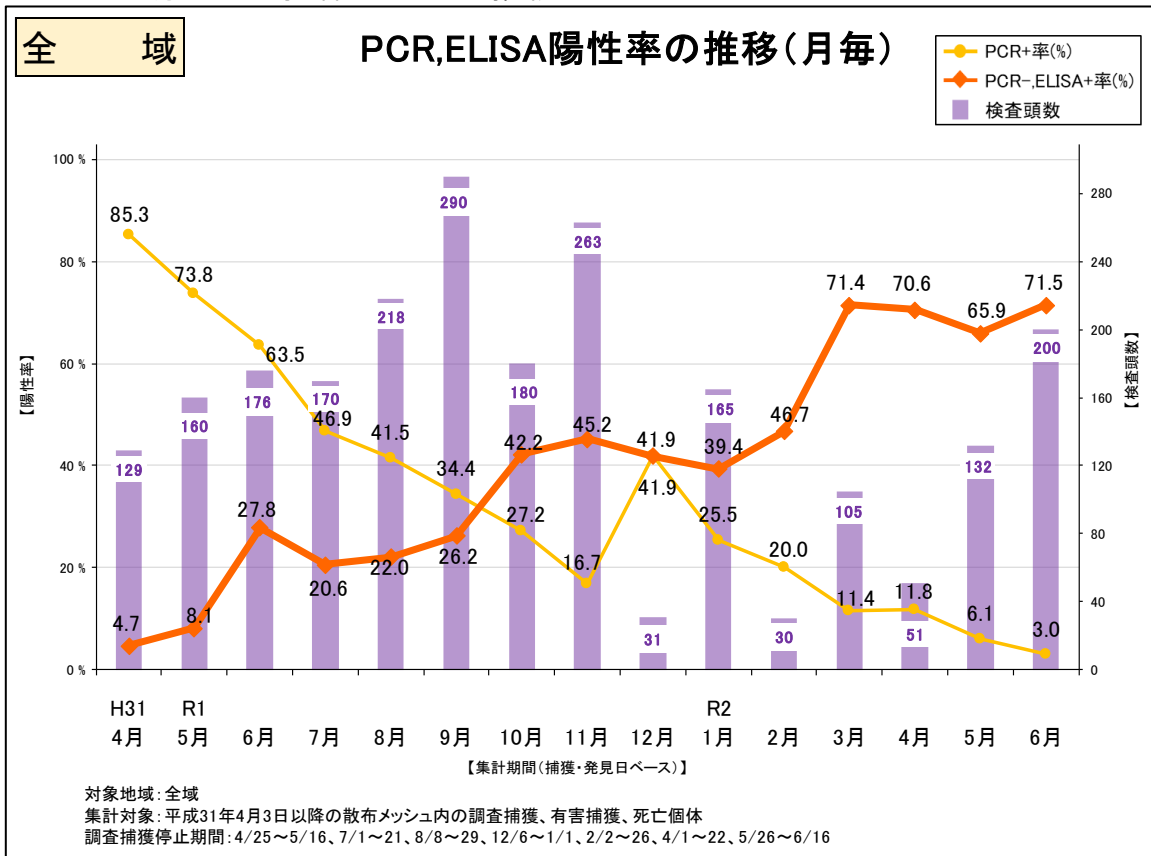
飛騨地域の散布地点を再設定（510 箇所→765 箇所へ増）したこ  
ともあり、これまでで最大の2,200 箇所に散布を実施。（養豚  
場周辺は0.7 箇所/km<sup>2</sup>、その他は0.4 箇所/km<sup>2</sup>）

〔圏域別の散布箇所数の実績〕

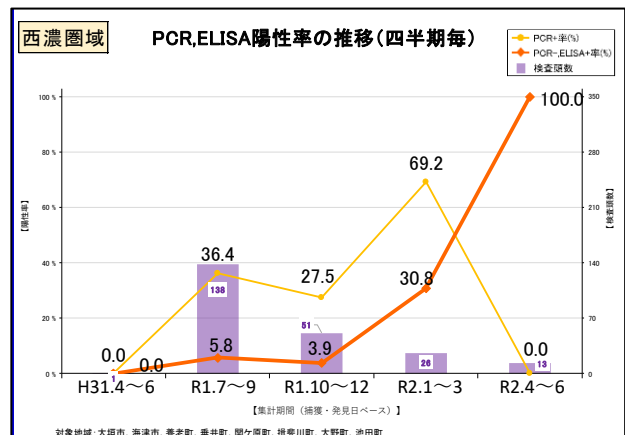
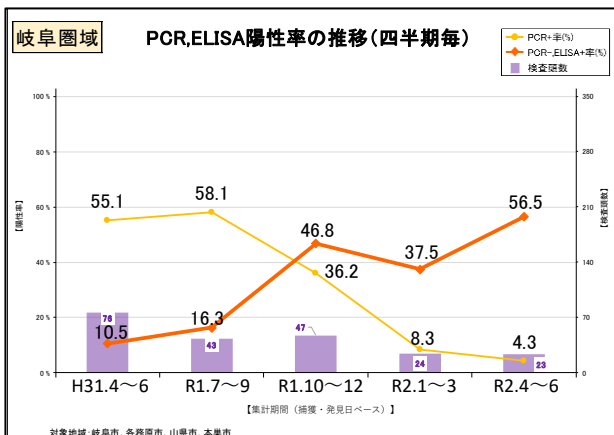
	R1第1期		R1第2期		R1第3期		R2春期		合計
	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	
全体	600	937	1,796	1,810	1,199	1,201	2,197	2,194	11,934
岐阜	81	119	144	143	131	185	214	214	1,231
西濃	0	0	256	256	103	166	215	215	1,211
中濃	347	504	516	511	412	412	619	622	3,943
東濃	172	289	399	390	279	280	384	378	2,571
飛騨	0	25	481	510	274	158	765	765	2,978

- これまでに、4期8回（H31.3月、R1.5月、7月、8月、12月、R2.2月、4月、6月）の経口ワクチン野外散布を実施してきており、R2.3以降の県全体のサーベイランスの結果は、CSF終息の目安とされる60%を超えているものの、地域毎に見ると抗体付与率のバラつきが出ている。

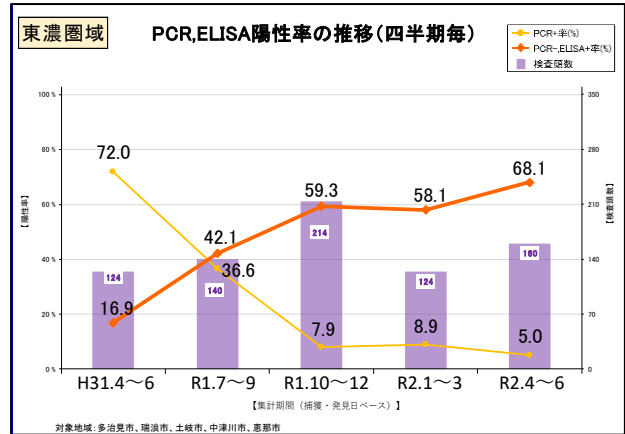
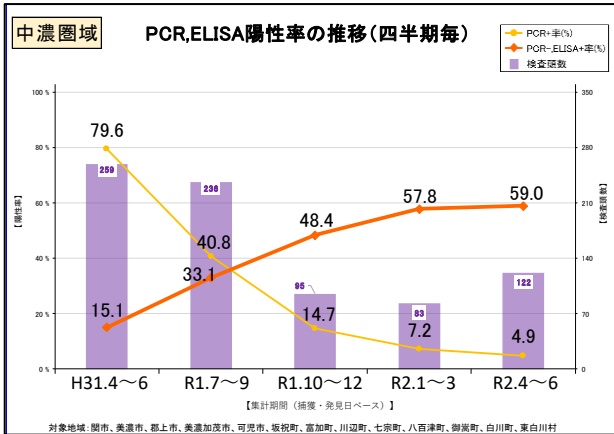
< C S F 陽性率と抗体付与率の推移 >



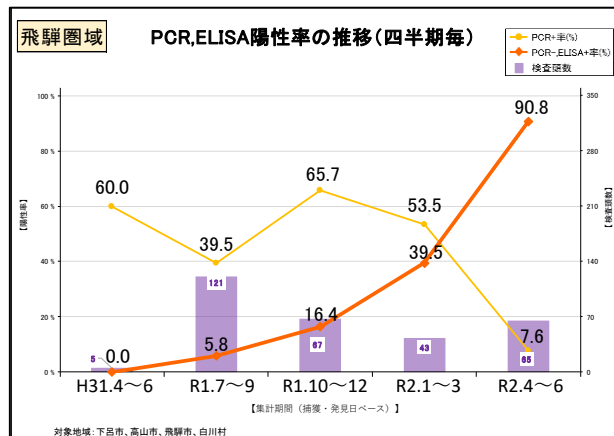
- ・ 全域で見ると、昨年秋に抗体付与率が40%を超え、直近(R2.6)ではC S F 陽性率(PCR+)が3.0%、抗体付与率(PCR-, ELISA+)が71.5%となるなど、対策の効果が出ていると考えられる。



- ・ 岐阜圏域では、昨年夏頃にC S F 陽性率の減少と抗体付与率の上昇がみられるが、以降の検査数が少ないため、今後の動向を確認する必要がある。
- ・ 西濃圏域においては、抗体付与率が上昇している期間が認められるものの、検査数が少ないため、現時点では傾向が判断できない。



- 中濃、東濃では、今年に入ってCSF陽性率が10%前後で推移しており、抗体付与率についても60%前後を維持。収束に向けて良い傾向と考えられる。



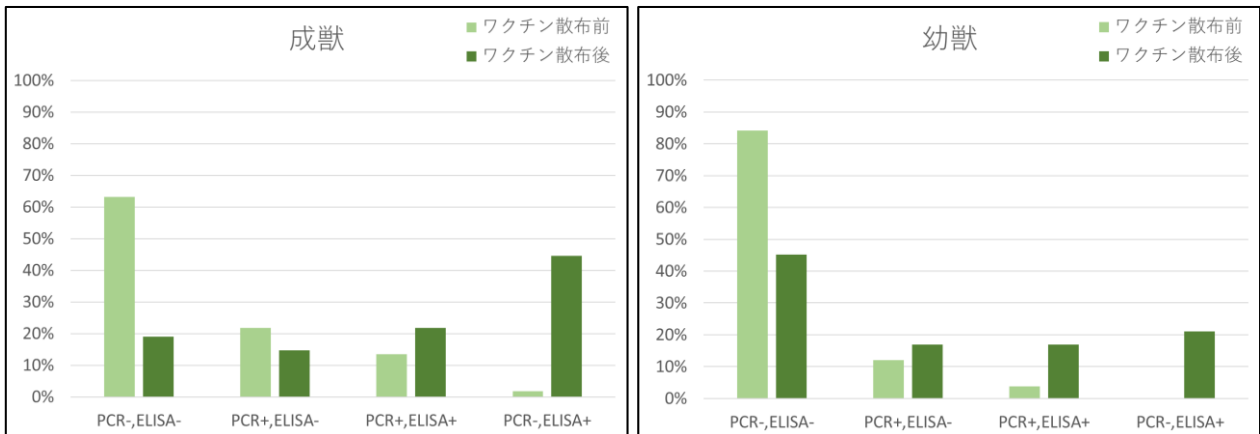
- 飛騨圏域では、本年4～6月期に急激なCSF陽性率の減少、抗体付与率の上昇がみられるが、今後の推移を注視する必要がある。

### 【分析】

- 中濃、東濃圏域は、CSFの浸潤時期が早かったことに加え、経口ワクチンの散布回数が多い。また、農場が多いことから、経口ワクチンの散布密度も高いため、抗体付与率が高くなったと推定される。
- 西濃、飛騨圏域は、CSFの浸潤時期が遅かったため経口ワクチン散布の開始時期が遅かったこと、冬期の散布箇所数が少なかったことから、他圏域に比べ抗体付与率の上昇が遅くなっていると考えられる。

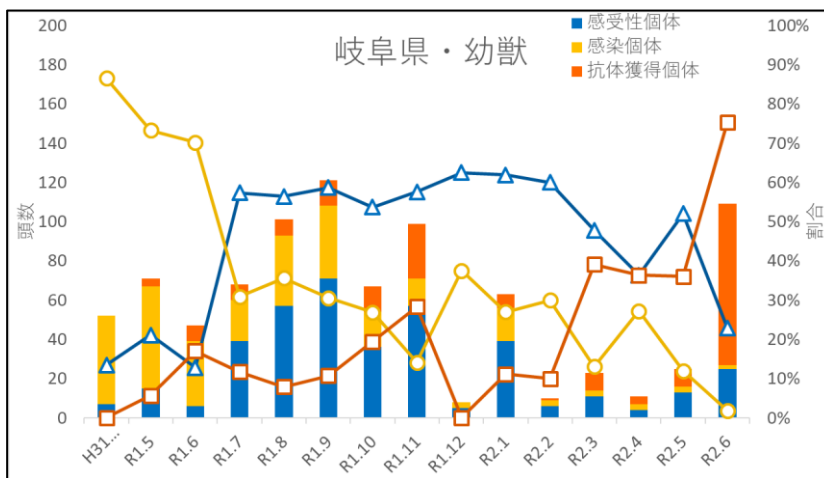
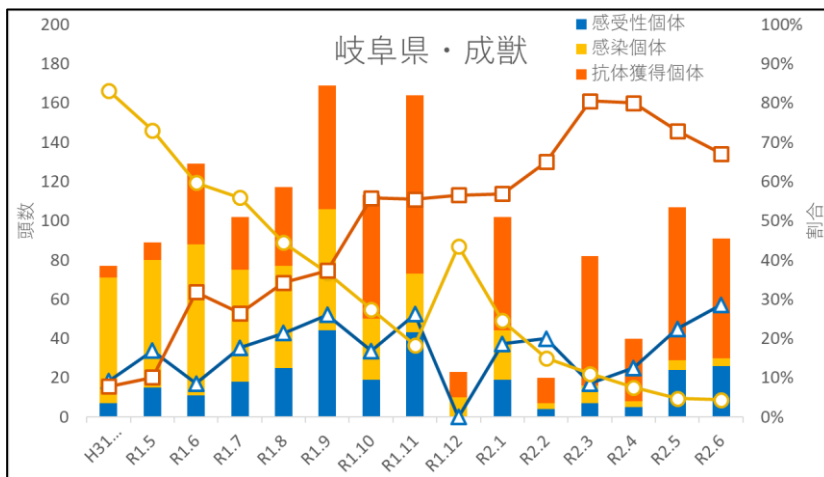
<成獣・幼獣別のワクチン散布前後における抗体獲得状況>

ワクチン散布前：H30. 9～H31. 4. 2      ワクチン散布後 H31. 4. 3～R2. 6



- ・ 成獣のほうが幼獣に比べ、抗体を獲得したいのししの割合が高い。
- ・ 幼獣では、感受性個体の割合が高い。

<成獣・幼獣別、感受性個体・感染個体・抗体獲得個体の割合の推移>



- ・ 成獣では、R 2. 4以降感受性個体の割合が上昇傾向
- ・ 幼獣では、R 2. 6に抗体獲得個体の割合が急上昇したが、移行抗体の可能性もあるため、今後の推移を注視。

<圏域別、感受性個体・感染個体・抗体付与個体の状況>

R2. 1～3 月

区分	全域	岐阜	西濃	中濃	東濃	飛騨
感受性個体(PCR-、ELISA-)	88頭 (29%)	13頭 (54%)	0頭 (0%)	29頭 (35%)	43頭 (34%)	3頭 (7%)
感染個体(PCR+)	60頭 (20%)	2頭 (8%)	18頭 (69%)	6頭 (7%)	11頭 (9%)	23頭 (53%)
感染個体の抗体状況 陰性(ELISA-) : 陽性(ELISA+)	26頭 < 34頭	0頭 < 2頭	9頭 = 9頭	1頭 < 5頭	3頭 < 8頭	13頭 > 10頭
抗体付与個体(PCR-、ELISA+)	155頭 (51%)	9頭 (38%)	8頭 (31%)	48頭 (58%)	73頭 (57%)	17頭 (40%)

R2. 4～6 月

区分	全域	岐阜	西濃	中濃	東濃	飛騨
感受性個体(PCR-、ELISA-)	97頭 (25%)	9頭 (39%)	0頭 (0%)	44頭 (36%)	43頭 (27%)	1頭 (2%)
感染個体(PCR+)	20頭 (5%)	1頭 (4%)	0頭 (0%)	6頭 (5%)	8頭 (5%)	5頭 (8%)
感染個体の抗体状況 陰性(ELISA-) : 陽性(ELISA+)	4頭 < 16頭	0頭 < 1頭	0頭 = 0頭	0頭 < 6頭	2頭 < 6頭	2頭 < 3頭
抗体付与個体(PCR-、ELISA+)	266頭 (69%)	13頭 (57%)	13頭 (100%)	72頭 (59%)	109頭 (68%)	59頭 (91%)

- ・ 岐阜、中濃、東濃では抗体付与の方向に向いている。
- ・ 飛騨では直近において、抗体付与の方向への遷移が現れ始めている。

**【今後の課題】**

- ・ 抗体付与率が高い地域では、現状を維持する経口ワクチン散布を実施
- ・ 抗体付与率が低い地域では、重点散布する際の散布密度の基準と散布手法の検討
- ・ 野生いのしし対策の効果検証に必要な検査（サンプル）数の確保と分析手法の検討
- ・ 人手でワクチン散布できない県境、森林地帯への対応の考え方整理とワクチン散布手法の検討
- ・ 歯列による年齢判定を導入し、幼齢個体の陽性率・抗体付与率のサーベイランスを詳細に実施
- ・ 幼齢個体の抗体付与率を上げるための経口ワクチン散布方法を検討

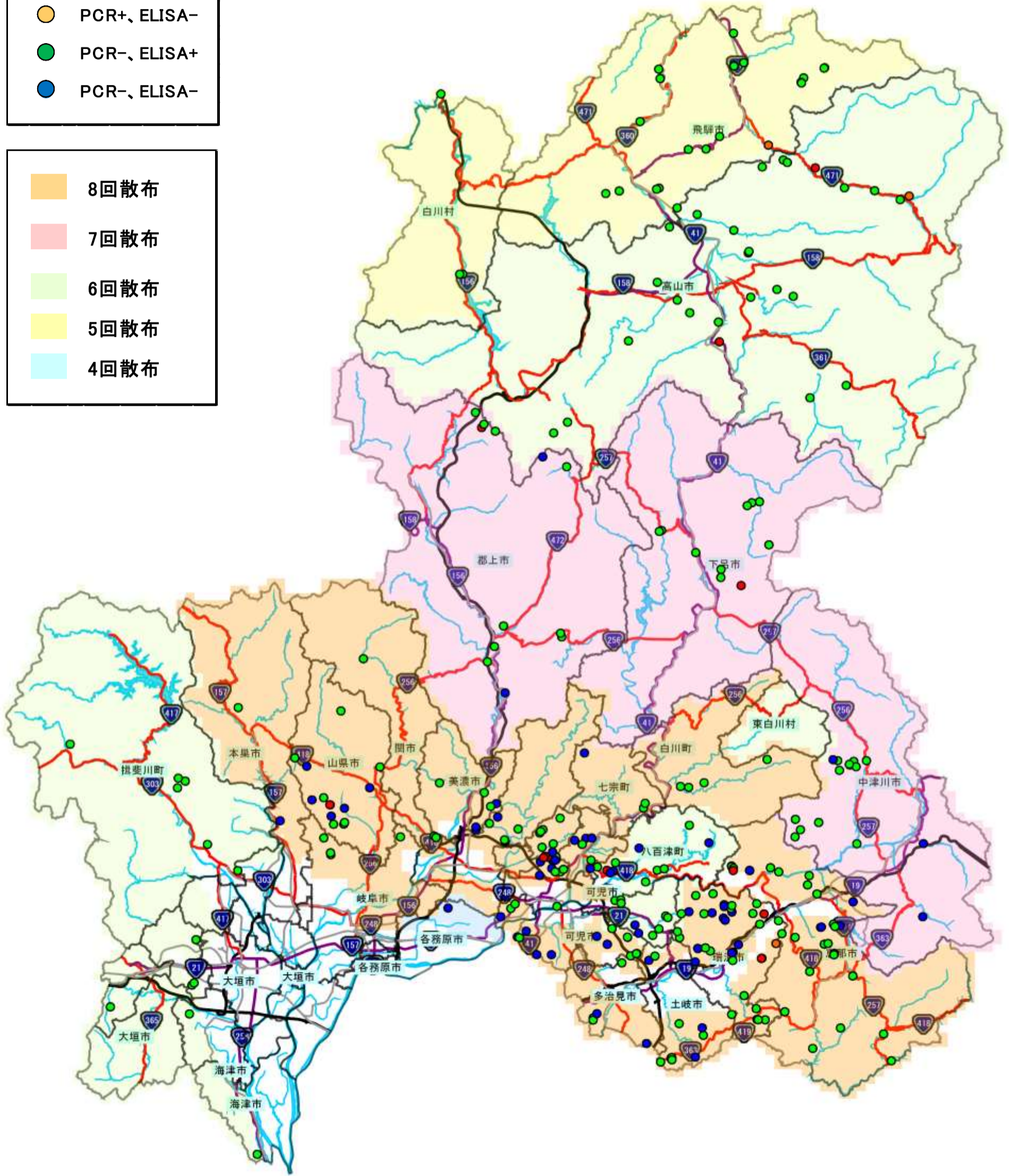


# 散布回数別 経口ワクチンのサーベイランス結果

## 【(R2.4月～R2.6月)捕獲・発見分】

- PCR+, ELISA+
- PCR+, ELISA-
- PCR-, ELISA+
- PCR-, ELISA-

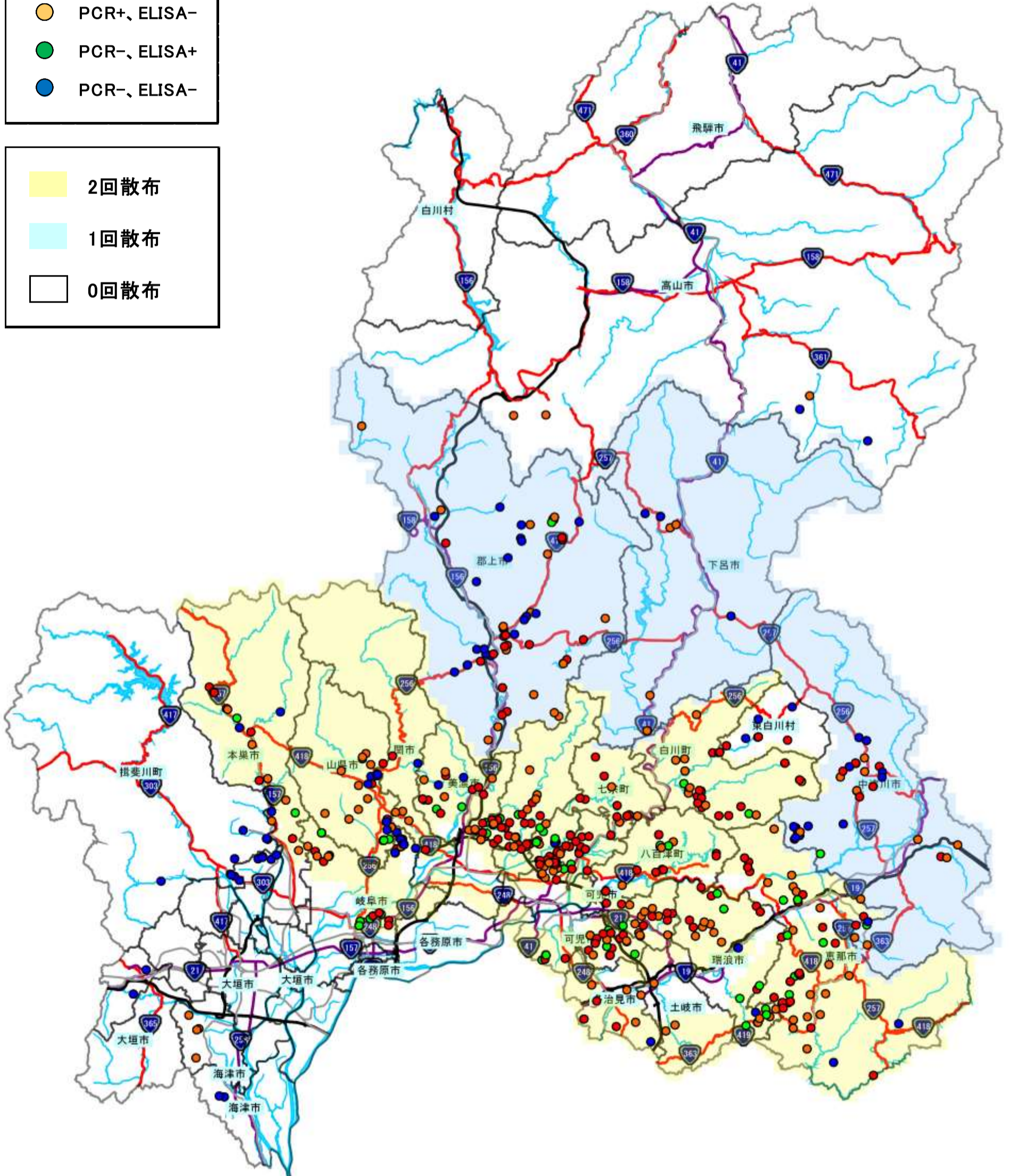
- 8回散布
- 7回散布
- 6回散布
- 5回散布
- 4回散布



# 散布回数別 経口ワクチンのサーベイランス結果 【(H31.4月～R1.6月)捕獲・発見分】

- PCR+, ELISA+
- PCR+, ELISA-
- PCR-, ELISA+
- PCR-, ELISA-

- 2回散布
- 1回散布
- 0回散布



# 経口ワクチンのサーベイランス結果

## 【全期間の捕獲・発見分 (H31.4.3～R2.6.30)】

- PCR+, ELISA+
- PCR+, ELISA-
- PCR-, ELISA+
- PCR-, ELISA-

